

夢持ち続け日々精進



⑤



「続けていけば全ての仕事は面白くなる」と話す高田代表取締役社長
 県立大佐世保校(山下哲嗣撮影)

V・ファーレン長崎
 代表取締役社長

たかた 高田
 あきら 明氏 (70)

私はラジオやテレビショッピングのジャパネットたかたで30年、その前はカメラ店で15年、経営に携わった。ただ、若いころに、自分が何かになりたいという目標は持っていなかった。なぜなら、将来は誰も分らないから。未来の不安にかられるのではなく、その時々で、やるべきことを一生懸命やってきた。厳しい経営状況にあったV・ファー

レン長崎の社長を引き受けた今も、自分がやるべきことを続けている。過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる。恋愛でも遊びでもいい、今を一生懸命生きていけば、結構思い通りの自分になれる。し

かし、そこには落とし穴もある。それは「頑張ったつもり」になること。ジャパネットでは、値段が高くても売れる商品は売れた。それは商品のよさが相手に伝わった時だった。「伝えたつもり」では全く売れなかった。「つもり」

では何も変わらない。高校時代は猛勉強をしたが、希望する大学には不合格だった。それでも、合格した大阪経済大で英語を専門的に勉強し、卒業後に就職した会社では念願の海外勤務をさせてもらった。会社を辞めた後も、英語を通して多様な文化や考えを学ぶことができ、私の人生に大きな影響を与えた。だから私にとって母校は、米国のハーバード大より偏差値は高いと思っている。学歴にとらわれてはいけない。人口が少ないなど地域格差や年齢を気にするのも同じ。一度きりの人生で学歴や格差を口にした時点で負けなのではないだろうか。

頑張れば、自分と同じ価値観を持つ仲間が集まってくる。ジャパネットでは多くの社員に助けてもらった。全国の放送局や商品のメーカーといっしょに会社をつくってきた。人のためになることをしようという価値でつながった。会社に入ればどの部署に配属されるか分からないが、それぞれに課題がある。新入社員は数年で会社を辞めるというデータがあるが、続けている仕事は面白くなる。何にでも関心を持ち、あきらめてはいけない。チャレンジする習慣が身に付けば、だんだん人生が変わる。

私は失敗をしたことがない。なぜなら、私にとつての失敗の定義は、行動しなかったり、一生懸命やらなかったりすること。だから夢や情熱を持ち続け、自信を胸に行動してほしい。そうすれば、日本や世界を席巻する人になれるはずだ。(山下寛明)

次回(20日)に掲載します

今を一生懸命生きて